

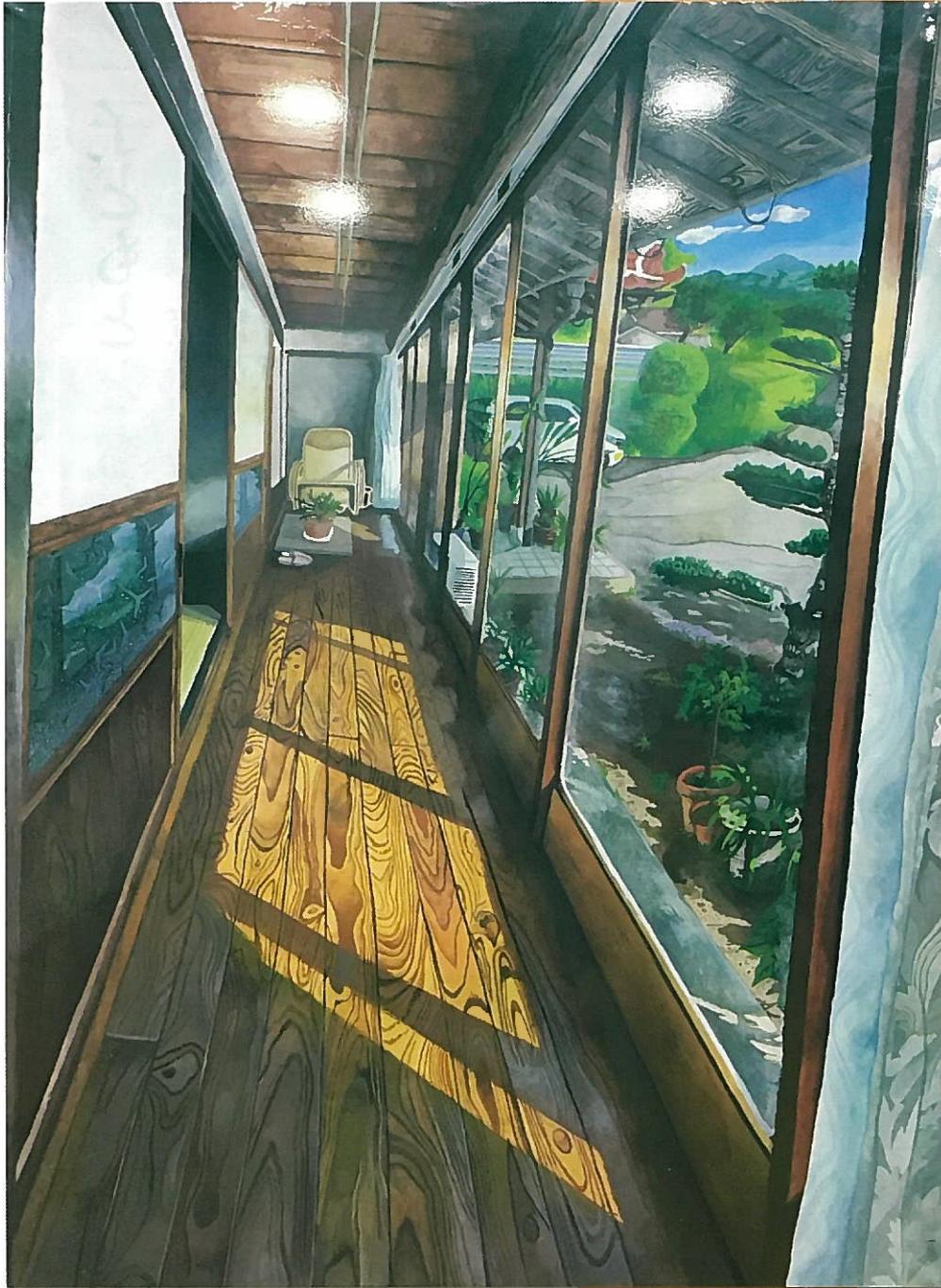
山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

11

明日を拓く — 成果を検証する —

令和2年 No.1305



■令和元年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞

田布施町立城南小学校PTA

前会長 椎木 敦士

現会長 添郷 文雄

周南市立富田中学校PTA 会長 清永 京介

■新支部長紹介

柳井支部 支部長 山本 剛士

山口支部 支部長 大野 和規

■現職研修助成事業 —個人研修—

柳井市立柳井小学校 教諭 明代 尚美

■現職研修助成事業 —グループ研修—

岩国市立灘小学校 教諭 土井 健

■現職研修助成事業 —学校研修—

山口大学教育学部附属特別支援学校

中学部主事 宮本 剛

光市立室積小学校 校長 水品 英之

■地域活性化活動助成事業

山口市立袖野木小学校 校長 勝間田文子

宇部市立常盤中学校 校長 田原 暢也

■わたしの潤い

周南徳山支部 岩本 達彦

下松支部 三奈木正紀

令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品

「ほどべ」

山口県立山口高等学校 1年 (受賞時) なかしま 真也

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



令和元年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞



子どもとともに育ち、

喜び集うPTA活動

田布施町立城南小学校PTA

前会長 椎木 敦士 (写真右)

現会長 添郷 文雄 (写真左)

令和元年度「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。昭和23年2月に本校PTA発足以来、諸先輩方による長年の活動と実績、そして地域の皆様の大なるご協力の賜と感謝を申し上げます。

学校紹介

さて、本校は、山口県の東部、田布施町の北部に位置し、初夏にはホタルが飛び交う自然豊かな地域です。児童数は、町内小学校の中で最も少なく、57名と小規模校ではありますが、登校時には、子どもたちの挨拶の声があちらこちらに響き渡っています。



三世交流どんどこ焼き

令和が始まった記念すべき年に、嬉しいニュースが飛び込んできました。「優良PTA文部科学大臣表彰に選ばれた」と校長先生から連絡を受け、その時の驚きと喜びは、今でも覚えていいます。私はPTA役員になるまで、あまりPTA活動に参加したことがありませんでした。役員となり様々な活動に参加すると、いつも子どもたちのために活動される保護者や地域の皆さんの笑顔が溢れています。

地域と一体となるPTA活動

地域と一体となったPTA活動に、「ホタルまつり」「盆踊り大会」「運動会」「公民館まつり」「三世交流どんどこ焼き」があります。初夏に開催されるホタルまつりには、地域の諸団体とともにPTAも出店しており、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、綿菓子や長蛇の列ができています。さらに、くじ引き大会は、子どもたちが景品の準備や当日の進行を受け持つっており、大いに盛り上がります。盆踊り大会では、スパイダーマンやちんどん屋など、子ども会や各団体でテーマを決めて仮装と踊りで競い合い、仮装大賞と踊り大賞を決定します。衣装作りを子どもたちと楽しんでいるのはお母さん方です。9月には、学校の運動会と地域体育大会を同時開催し、子どもから高齢者まで、グラウンドを駆け回ります。10月の公民館まつりでは、ポン菓子や綿菓子を出店し、ホタルまつりと同様に、その売上げはPTA活動に還元しています。そして、年が明けた始業式には、どんどこ焼きを実施しています。前日の櫓を組み作業には地域の方やお父さん方が力を合わせ、当日の豚汁の準備に婦人会の有志の方やお母さん方がふるって参加する姿は、代々引き継がれています。

今年度の様子

今年度はコロナ禍で、子どもたちが楽しみにしているホタルまつりや盆踊り大会が中止になったり、長期の

臨時休校の時期があったりしましたが、その分、子どもたちは学校で学び、友だちと会える喜びを今まで以上に感じたのではないかと思います。

毎月14日は「いっしょの日」として、先生方、地域の方、保護者が登校時に校門付近で、挨拶運動を行っています。子どもたちの「おはようございます」と、今年度から始まった「有り難うございます。行ってきます」は、例年以上に大きな声が響き渡り、その姿に元気をもらっています。さらに、これまで8月1回の環境整備作業は、5月にも行い、子どもたち、先生方、保護者、そして多くの地域の皆さんも参加され、ソーシャルディスタンスに注意を払いながら、楽しく活動に取り組んでいました。終了後には、お茶を片手に、子どもも大人も皆、充実感に溢れた清々しい笑顔を見せていました。

地域への感謝とこれからの在り方

このようにして、学校を核として子どもから高齢者までが、ともに活動していくCSの仕組みを生かして、子どもや保護者は、地域の皆さんの温かさ、地域の自然と文化を学び、地域に誇りをもつとともに、感謝と助け合いの精神を自然に育んでいるように思います。



公民館夏祭り

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、前例のないチャレンジが続きますが、学校、地域、保護者が今まで以上に心を通わせて、子どもたちの健やかな成長と温かく活力に満ちた地域づくりの一助になれるよう、全会員で喜び集う活動に励んでまいります。

過去、現在、未来。がっちり繋がるPTA



周南市立富田中学校 PTA
会長 清 永京介

今から3年前、平成29年長男の入学式の事でした、高校時代の1学年先輩が私の席へ近づき、「今年から俺と交代」と一言。直後に氏名、住所、連絡先を記入し、来週日曜の会議に出席するように丁寧にお願いされました。

正直、何を交代なのかさっぱりわからず会議に出席、交代を告げた先輩の姿はありませんでした。そして自己紹介が始まりました。当時のPTA会長吉武さん(前山口県PTA連合会会長)さんから、「新副会長の清永さんです」。「えっ、はい宜しくお願ひ致します」。これが2年後に、優良PTA文部科学大臣表彰を受ける、PTA会長の始まりです。

地域とつながる学校

周南市立富田中学校は、昭和22年5月に開校した歴史ある学校です。その分卒業生も多く、校区内ではたくさん卒業生の方々が、富田中学校を見守って下さっています。副会長1年目の校内除草作業の際、地域の方々が草刈り機を持参し、プロ級の草刈り技術であったという間に伸びきった草を刈ってくれました。草刈りをして頂いたほとんどの方が富田中学校の卒業生と聞き、地域の方々に見守られ、各活動にご協力頂いているおかげで、学校運営が円滑に進められる事を痛感致しました。

やってみよう！からのPTA活動

副会長2年目、教頭先生からある相談を持ち掛けられました。「生徒の駐輪場が足りず、駐輪場から自転車が溢れ出している。駐輪場へ行ってみると、10教台の自転車駐輪場に停められず溢れ出していました。当時の吉武会長が一言「やってみますか」。私も一言「やりますか」。これでPTAによる駐輪場建設が始まりました。



駐輪場の建設

材料を購入し、屋根部の組立、基礎の設置、柱と梁の組立、全ての作業にPTA会員の協力がありました。危険のない作業は、生徒にも協力してもらい、わずか1か月の期間でPTAによる生徒のための駐輪場が完成しました。2年経った現在も駐輪場は活躍中です。

モデル校区としての挑戦

平成31年(令和元年)度にPTA会長を引き受ける事となると同時に、山口県PTA連合会と連携した家庭教育支援のため、推進協議会のモデル中学校区に選んで頂きました。

活動内容に苦慮していたところ、PTA会員の方から中学生と赤ちゃんふれあう、子育て広場を開催してほしいとの要望がありました。過去にも同様の活動を行う案が出ていたのですが、当校は1学年が200名近い大規模校のため、断念した経緯がありました。しかし、何事もやってみなければ解りません、校区内の小学校PTA、地域の色々な団体に相談した所「何とかなるのでは」と感じ、開催することを決めました。

開催に向けて何度も会議を開催し、気が付くと地域の方々を巻き込んで、大きな活動組織が出来ていました。3年生を半分づつ、2日に分けて開催した子育て広場は、2日間とも大成功、やはり何事もやってみないと解らないものです。

継続は力

令和元年、優良PTA文部科学大臣表彰に富田中学校が選ばれました、長年にわたり富田中学校PTA



赤ちゃんとふれあう子育て広場

の方々がご尽力された賜物と思えます。新型コロナウイルスの影響で、様々な活動が困難な状況下ではあります。活動が再開できる日をよりよい環境で迎えられるよう準備して参ります。

教育会との出会い、10年間の関わり



柳井支部
支部長 山本 剛士

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、定例の山口県教育会・山口県退職公務員連盟会柳井支部合同総会も紙面上にて承認され、吉浦正明前支部長から大役を引き継ぐこととなりました。

私は、平成22年定年退職し、教育会柳井支部の事務局として5年間お世話させていただきました。その後、一会員として様々な行事へ参加しながら関わってきました。

平成30年から副支部長として、



第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会を引受け受けることとなり、大会に向けて準備・企画委員会において協議を重ね、令和元年11月16日(土)に柳井大

会を迎えることができました。情報紙「山口県教育1月号」へ掲載してありましたが、大会主題「『明日を拓く』伝えたいふるさと・つなげる絆」と題して、

第一部 柳井市の伝承活動の紹介

- ・阿月子ども神明太鼓
- ・伊陸神楽・月性剣舞
- ・合唱「柳井の歴史」

柳井混声合唱団
題名「柳井に吹いた維新の風」

第二部 実践発表

「ふるさと再発見(五年間)のあゆみ」
第三部 討論会

学校・家庭・地域の連携を語る

「わたしたちができることは…」の3部門構成で柳井支部独自の考え方を紹介させていただきました。ご参加されました皆様方にはたいへん感謝しています。

冒頭にも述べましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、今後の活動が懸念されますが、本支部では、今後も、地域と学校が一体となつて、美しい心と文化を正しく理解し、継承・発展させるという合言葉で活動を進めて参りたいと思つています。各支部のご活躍とご発展を心よりお祈りいたします。

つながり



山口支部
支部長 大野 和規

前支部長から今回のお話をいただいたとき、支部活動へのかかわりも薄く、力もない私には荷が重すぎるのでお断りしようと思いましたが、しかし、その時ふと3年前に亡くなった母の顔が浮かびました。

私の母はおよそ60年前、屋台から始めて市内で小さなラーメン屋を営んでいました。屋台のときは「むらさきのおぼちゃん」、店を構えてからは「ふみきのおぼちゃん」と呼ばれ、山大的学生や教員、公務員など多くの方々に支えられながら毎日ラーメンを作り続けました。母は話好きで、困っている人を放っておけないお節介な性格でした。また、出世払いでラーメンを提供したり、考えや行いが間違っていると思つた人に説教をしたり、きつぶのいい俗にいう肝つ玉母さんでもありました。

店を閉じて後、孫の守をする年若い母からよく思い出話を聞かされました。母の話はいつも人とのつながりでいっぱいでした。楽しかった思い出の中に前支部長もよく登場してきました。母の人生は多くの方々のおかげで豊かで幸せなものだったと思います。

今回のお話は、ひよっとしたら母のつながりが廻り廻つて私のところ



山口県教育会山口支部臨時推進委員会

にきているのかもしれないと思ひ、お受けすることにしました。しかし、支部長の大役は果たせるだろうかと不安でしかありませんが、つながりはしっかりと大切にしていきたいと思つていきます。今、コロナ渦の中で本物のつながりが求められています。その先には、多くの幸せがあるはずですが、私の好きな言葉の一つ、宮澤賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」。自分なりにこの言葉の意味も探つていけたらと思つていきます。

個人研修

「気付き・支え・つなぐ」教育相談



柳井市立柳井小学校
教諭 明代 尚美

今年度、特別支援教育サブセンター校に地域コーディネーターとして着任した。保護者相談では、保護者の気持ちに寄り添い、子どもの今、そして将来を見据えた相談になるように、『先生のための保護者相談ハンドブック（学苑社）』を参考に、3つの視点で実践を重ねている。

○保護者とつながる

保護者相談では、子どものために一丸となることが大切である。そのために、相談の始めは、つながりを築くことを重視している。保護者の来校に対して感謝を伝えたり、子どもの頑張りや細かな成長について伝えたりしている。事前の準備には時間をかけ、授業参観や担任への聞き取り等、多角的に情報収集を行って臨んでいる。

○話を引き出し整理する

就学へ向けての相談では、保護者は「本当にこの就学先でよいのか」と悩まれて来校される。しっかり保護者の思いや子どもの様子を引き出すと

もに、就学先について丁寧に情報提供を行っている。保護者、そして、子ども本人が納得した上で、就学について決断できるように努めている。

○必要に応じてつなぐ

学習面についての相談では、保護者に対して、検査は子どもの実態把握のための一つの方法であることを伝え、専門機関につなげている。学校では、WAVES検査（「見る力」を育てるビジョン・アセスメント）等を実施し、その結果を保護者や専門機関と共有することで、みんなで子どもに寄り添う支援を考えている。

本校の相談室は、机にアクリル板の間仕切りを設置し、保護者に安心して来ていただけるようにしている。また、季節の花を生けたり、発達や子育てなどに関するコラムを掲示したりして、温かみのある空間づくりを心がけている。

今回の助成により、上記の書籍の購入や諸研修会への参加ができた。今後も「気付き・支え・つなぐ」教育相談の実践と研修を深めていきたい。



温かみのある空間づくりを工夫した相談室

グループ研修

ロボットを用いた防災教育の単元開発



岩国市立灘小学校
教諭 土井 健

本年度よりプログラミング教育が全面実施となった。総合的な学習の時間においても、探究的な学習の過程に適切に位置付けなければならない。

岩国市では、昨年度プログラミング教育用としてmBotというロボットを各小中学校に配備することが決定された。そこで本校では、3年生で福祉、5年生で防災をテーマとした探究的な学習活動において、ロボットを用いたプログラミング体験を取り入れることにした。しかし、このロボットを活用したプログラミング教育を年間指導計画に位置付けるにあたり、一つの課題が浮かび上がってきた。子どもたちの学びの発展性、系統性をどのように担保するかである。

mBotは車型のロボットである。単純に一定のコースを進ませる、センサーを利用して止まるといった学習活動だけではロボットへのプログラミングという点では発展性がない。そこで、実際に開発・利用が進められている災害対応ロボットに焦点を

あて、5年生の防災学習の単元の中にレスキューロボット開発を位置付けることにした。mBotを無線コントロールにより、災害現場の情報収集を行うロボットへと改良していこうという学習である。昨年度、mBot付属の赤外線コントローラを使い実践したところ、カメラによる遠隔操作を行うことが難しいという課題が生じた。今年度は、その点を克服するため山口県教育会の助成を受け、Bluetoothコントローラを使用することにした。

現在、現代的な諸課題の一つとして、多くの学校において、防災学習を行っている。今年度の実践を基に、様々な学校における防災学習の中に組み込み活用していただけるよう単元開発に取り組んでいきたい。



5年生の「防災学習」でレスキューロボットを開発

学校研修

レジリエンスを高めよう！ 「チャレンジタイム」の創設



山口大学教育学部附属特別支援学校
中学部主事 宮本 剛

本校は、現在、発達障害と知的障害を併せ有する児童生徒を教育の対象としている。

発達障害のある児童生徒は、その特性から周囲の理解が十分ではない環境では、結果的に自尊感情を損なうような経験をしていることが少なくない。このような経験が日々繰り返されることにより、慢性的な不安感に苛まれ、「何度も」「じっくりと」「期待感をもって」物事に取り組むことが難しい状態に追い込まれてしまう。いわゆるレジリエンス(心の回復力)がマイナスな状態だと言える。

そこで本校では、児童生徒のレジリエンスを高めるために、自立活動の時間の指導のひとつとして「チャレンジタイム」を創設した。この授業は、児童生徒一人一人の得意なことや、興味関心のあることを中心に学習を展開していき、自身の思考・判断を伴う“チャレンジ”を繰り返しながら、「こうすればうまくいく」といった振り返りをとおして、

主体的に課題解決を図っていくものである。

前期の、「チャレンジタイム」では、イラスト制作やアクセサリーの製作、シェフ体験、コンピュータやタブレットを活用した文書作成、「ポッチャ」の実践研究、ピアノ演奏、歌唱、ダンス、自転車チャレンジ等々、様々な取組が個々に応じて実践された。どの児童生徒も真剣に自分と向き合い、集中して取り組む時間となっている。そこには、工夫を重ねて向上を図ろうと、「何度も」「じっくりと」「期待感を持って」「チャレンジ」を繰り返す児童生徒の姿があり、この取組が特別支援教育の目指す「自立と社会参加」の礎となっていくことを期待するものである。

この度の助成を受けて、本実践をまとめ、リーフレットにして配付することで、県内特別支援教育の質的向上に資するものにしたいと考えている。



チャレンジタイムにおけるシェフ体験

学校研修

自他を大切にしながら 共に伸びようとする児童の育成



光市立室積小学校
校長 水品 英之

本校は、学校教育目標を「日本一学びが好きな学校をめざすことで、自ら進んで学び、心豊かに生き抜く『むろづみっ子』の育成」とし、その実現に向けて、教職員が一丸となり、日々の教育活動を展開している。

さて、今年度で3年目になるが、標記の研修主題に迫るため、外国語科と道徳科の2教科に焦点を当て、研究を進めてきた。これまで、児童同士のかかわり合いを中心に研究を進めてきたことで、相手に自分の思いを伝えることのできる児童が増えている。ただ、話し合いが言い合い(一方向)にとどまり、一部児童のみかかわり合いとなることもあった。また、相手の意見をもとに自分の考えをさらに深めるまでには至っていない。

そこで、今年度は、「聞く力」をさらに高めることで、伝え合う力の向上へつなげていくことを課題とした。自他の「他」を大切にするためには、しっかりと相手の話を「聞く」ことが重要である。聞くことは、相手を理解しようとすることであり、思いやりの心に通じる。そのためには、相手を意識した伝え合いを仕組んだり、個の意見を全体に

生かしたりする授業づくりが必要になる。

そこで、以下の計画で授業中心の校内研修を進めている。

- ①研修の方向性、授業研究 【4月～7月】
・研修組織づくり・授業研究
- ②研修の深化、授業研究 【8月～12月】
・全校研修(道徳科、外国語科)・全校授業
・資質向上研修
- ③研修のまとめ 【1月～2月】
・今年度の反省及び次年度に向けての協議

本校の校内研修のねらいは、教師の授業改善による授業力の向上である。新学習指導要領に移行し、「主体的・対話的な深い学び」を実践するためにも、「聞くこと」を中心に同一步調で、研究授業、研修という本来の学びを大切にして今こそ展開すべきだと考えている。そして、本校の学校教育目標である「日本一学びが好きな学校」を達成するためにも「日本一学びが好きな教師集団」を目指して互いに切磋琢磨しながら研修を深めていきたいと思う。



6年生「外国語科」外国語指導助手を活用

学校の笑顔と元気を地域に



山口市立柚野木小学校
校長 勝間田 文子

「とーんと、昔のお話」7月終わりの最初の練習で、小気味よい台詞が校舎内に響いた。一気に落語劇の世界に引き込まれるような感覚を覚えた。

本校は島根県との県境近くにある山間の小規模校である。男子ばかり5名の児童が元気に学校生活を送っている。小規模校で縮こまりがちな子どもたちの内面を鍛え、思いを堂々と伝えられる子どもの育成のために、10年ほど前から東京の劇団に所属しておられ、現在萩市在住の方から落語劇の演技指導を受けている。

柚木地域には古くから有志による芝居集団「かわせみ一座」が存在し、集落の楽しみの一つとなっていたが、現在ではその一座もなくなり、柚野木小の児童が地域に元気を届けたいという思いで、地域の方々に向けて発表会を行っている。

さらに、もうひとつ本校には伝統芸能に込められた「思い」を受け継いで行っているものがある。それは柚木神社で地域の安全などを願って行われ

ている獅子舞を地域の音頭「うららか」に合わせてアレンジした「獅子舞踊り」である。

これらの取組は児童自身の成長につながることはもちろん、地域の方々の安全と元気を願う気持ちを共有することで、ふるさとを愛する気持ちを育むことにもつながると考えている。今年はコロナ禍のため、地域の行事も中止になってしまったが、例年地域の行事で発表する機会をいただき、過疎化が進む本地域の活性化の一翼を担っている。

本校はPTA会員数も少なく、活動費が乏しい状況だが、山口県教育会助成事業の支援によって継続して活動ができることに、衷心より感謝するとともに、コロナ禍が収束し、地域の方々の笑顔が見られる日を一日千秋の思いで待ちながら、日々教育活動に勤しんでいる。



うるおいのある学校づくり



宇部市立常盤中学校
校長 田原 暢也

本校では、生徒はもちろんのこと、来校者を美しい花で出迎えるため、山口県教育会の助成を役立たせていただきながら、学校環境整備に力を入れている。

昨年度は、あじさいや熊野さつきの苗を購入し、生徒が登下校する際に目に付く場所に植樹した。また、あじさいを植えた通りを「常中あじさい通り」と命名し、美術部の生徒が立派な看板を作成してくれた。

本校のチャレンジ目標は、「気持ちよい挨拶・心磨く掃除・時間厳守」の三つである。掃除の時間には、黙々と掃除に取り組む生徒の姿が見られ、古い校舎ではあるが、心を込めて美しい学校環境づくりに取り組む生徒の意識は高い。また、本校は敷地面積が広く、市街地にある学校にしては草刈りが必要な場所が広大である。親師会(PTA組織)やそのOBの方々により、年に数回はボランティアで草刈り作業もしていただいている。

今年度は、年度当初からコロナ禍の影響で臨時

休業となり、5月末ようやく学校再開となった。学校の再開に当たり、教育会の助成を活用させていただき、職員作業でプランター約50個に花の苗を植え、生徒を花で出迎えることにした。

また、教員の発案により、生徒が登下校する道端にひまわりを植え、「ひまわり通り」の看板を設置した。写真は、支援学級の生徒が力を合わせて制作した看板である。

今日の学校教育課題は多岐にわたるが、とりわけ、現在は感染症対策が最も重要な課題である。そのような中、生徒の心を豊かにする取組として、「美しい環境の中で学校生活を送る」ことが重要であると考えている。

私が初任校でお世話になった尊敬する校長先生は、一日中外で花壇の整備等をされておられた。小規模校であったが、充実した花壇で、生徒は一人一花壇、生徒の名前のプレートが設置してあった。本校の取組はその足元にも及ばないが、生徒自らが環境に関心をもち、美しいものを美しいと素直に思える、そんな生徒に育てられることを期待している。



私と絵との付き合い



周南徳山支部
岩本 達彦

「父さん、母さん、こんどの休みはどこに行くの？」

今から約60年前、私の両親は、小学校の図画クラブに入っていた3歳上の姉と2歳上の兄と私を、光の虹ヶ浜や花岡八幡様、笠戸島など色々なところに汽車やバス、自転車などに乗せてよく絵を描きに連れて行ってくれた。

小学校に入学した私は、勿論すぐに図画クラブに入って絵を描き、特に家では、乗り物が好きで広告の裏やノートに車や船、飛行機などをよく描いたり、当時あった貸本屋で借りた本を見て、戦艦やゼロ戦などを描いたり、自分でデザインしたスーパーカーや未来の乗り物なども描いたりしていた。

しかし、中学校・高校では野球に、



大学ではハンドボールに夢中になり絵を描くことはなくなりました。また、教育職に就いたときも、子どもたちには絵を描

くことや描く楽しさは教えたが、自分自身が絵を描くことはなかった。教育職、保育職を退いた今年4月、ひよんなことから絵を描くことになったのを機に、55年前を思い出し、月1枚は絵を描いてみようと思ひ、水彩画や点描画、切り絵、イラスト等の絵を大小問わず描いている。今は、来年4月に小学校に入学する孫と一緒に色々なところに絵を描きに行けることを楽しみにしている。絵を描くことの楽しさを教えてくれた両親に感謝である。



下松支部
三奈木 正紀

わが街スポーツを楽しむ

下松市は、バドミントンの盛んな街です。小学生を対象としたクラブや中学校の部活で子どもたちが、全国大会を目指して懸命にシャトルコックを追っています。

一方、だれでも気軽に楽しめる草の根スポーツとしてのバドミントンも盛んです。その中核は、市内六つの公民館区にそれぞれ一つずつあるクラブの活動です。それぞれのクラブで、地域の老若男女がゲームを楽しんでいます。

そして、年3回、これら6チームが一堂に会し、一日かけてダブルス団体戦を行います。この団体戦では、かつてインターハイで活躍した選手同士のハイレベルな戦いもあれば、珍プレー続出のほほえましい初心者同士のゲームも展開されています。

私が所属しているクラブは、近くの小学校体育館をお借りして練習しています。会員の減少や高齢化による活動の停滞が10年来の悩みでしたが、ここ数年、初心者はもちろん中高バド部OB



が、体育館に足を運んでくれるようになり、活気が戻ってきました。



久保バドミントン愛好会の仲間たち

私自身は、年々、脚が動かなくなってくる、速いラリーについていけないようになってくるといふ現実に向き合いながらも、若人に交じってドタバタと楽しくシャトルを追っています。残念ながら、新型コロナウイルス感染症予防対策により、他の競技と同様、今年度の団体戦は、まだ1回も開催されていません。しかし、30数年の歴史のあるこの大会の年度内再開を目指して、話を進めているところです。

この団体戦を含め、市・県・全国大会の一日も早い再開を願いつつ、また、よい汗を流した後の仲間とのおいしいお酒を楽しむにコートを走り回っている今日この頃です。